

牛群検定通信 No.194

～残 暑～

暑い日が続いています。暑熱対策に「もう十分」はありません。何度でもチェックしてみてください。暑熱対策は、基本的に次の3項目に大別されます。

(1) 牛を温めない(日射し対策や屋根の加工など)

(2) 牛を冷やす(送風扇やミスト、毛刈りなど)

(3) 飼料の発酵熱を抑さえる(飼養管理の工夫など)

(1)と(2)は牛舎の設備等として、実施されていると思いますので、今回は(3)における、飼養管理面の工夫について、牛群検定成績表から解説したいと思います。

1 検定成績の実績チェック

①標準乳量

検定成績表の標準乳量が他の検定月と比べて減量していませんか？もし、減量していれば、それは暑熱対策が不十分であることを意味します。

②体細胞数

夏季は乳牛の体力（健康）が低下し乳房炎を罹患しやすく、体細胞数が増加する時期です。7～9月ごろの体細胞数が増加していれば、夏バテから乳牛の体力（健康）面が低下していたとも考えられます。

2 乳脂率と乳蛋白質率

7～9月に乳脂率が低下するようでしたら、粗飼料の食べ込みが低下していることになります。しかし、暑熱により採食量が減量する飼料は、粗飼料＞サイレージ＞濃厚飼料の順になります。これは、粗飼料の繊維がルーメンでの発酵熱の発生に影響するためですので、食べ込ませるには次のようなことに留意します。①良質なものの、②給与回数の増加、③切断長の短縮、④夜間給与など。そして、粗飼料の食べ込みが減量した分は濃厚飼料で補うことも重要です。この時期の乳蛋白質率が低下していれば、減量分のエネルギーを補いきれていないことを示します。

3 MUN

7～9月にMUNが増加し14mg/dl（地域差あり）を越えるようでしたら、蛋白飼料過多です。蛋白飼料は、炭水化物や脂肪と比べ、体内での熱の発生量が大きいことが知られていますので適切な量を与えることが重要です。代表的な蛋白飼料は、豆科乾草、大豆粕、豆腐粕等です。また、生粕類は、この時期、変質しやすいので更に注意が必要です。

4 その他

①飲水

新鮮で十分な飲水量を確保することは最も重要です。

②ミネラル

発汗と流涎からNa（ナトリウム）とK（カリウム）が不足します。重曹等で補うことが良く行われています。

（相原）